

2014.8 Vol.2

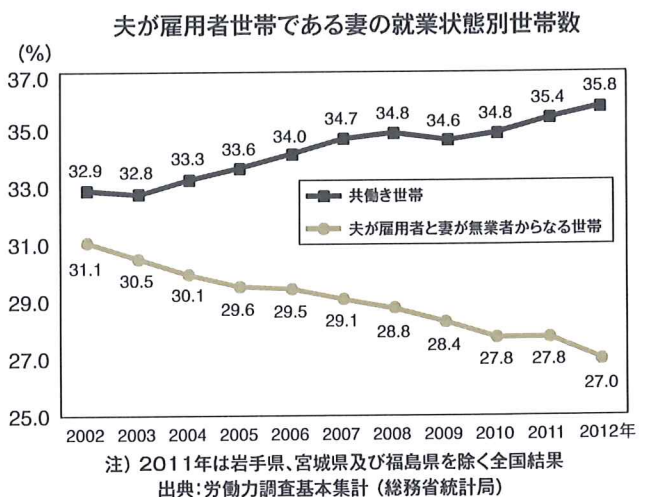
〈特集〉 SPECIAL NUMBER 共働き家族の妻の家事負担割合は 妻年齢・末子年齢が高くなるにしたがって上昇

今年2月に発表した、「共働き家族の暮らしと意識に関する調査」<http://www.jkk-info.jp/release/#link7>は、夫婦ともフルタイムで働く子育て家族の暮らしを浮き彫りすることを目的に、妻がパートタイム勤務、専業主婦と比較することで、夫婦ともフルタイムで働く子育て家族の暮らしと意識を探ったものです。明らかになったことは、①働くママ(フルタイム、パートタイム勤務)の就業意識の高さ、②フルタイム勤務のママは、専業主婦・パートタイム勤務のママに比べると普段の生活に時間的ゆとりがなく、「時間のゆとり願望」が強い、③夫婦ともフルタイム勤務の家事スタイルは「メリハリ」「分担」「オープン」というのが特徴でした。

今回のニュースレターは、前回の調査を詳細分析したもので、夫婦ともフルタイムで働く子育て家族の「家事分担度」によって、どんな傾向があるのかを見たものです。アベノミクスの成長戦略の1つに「女性の活用」が掲げられ、①2020年の25~44歳の女性就業率73%(2012年68%)、②第1子出産前後の女性の継続就業率55%(2010年38%)、③男性の育児休暇取得率13%(2011年2.6%)、④指導的地位に占める女性の割合30%などの数値目標を掲げています。女性の社会進出をバックアップするために今後労働環境が改善され、女性の社会進出は一段と進むことが期待されますが、ママの社会進出には制度の改善と同時に妻の家事軽減をいかに図っていくか、言葉を

変えれば夫の家事協力が不可欠です。ここでは夫婦の家事分担を、「妻がほとんどすべてを負担」「妻のほうが多くを負担」「妻のほうがやや多くを負担」「妻と夫が同じくらい負担」「夫のほうが負担」の5段階に分類し、家事分担度が低い夫婦の傾向を探っています。浮かび上がったのは、「妻の家事負担度は妻年齢、末子年齢が高くなるにしたがって増え、年収が増えると減る傾向にあることでした。

調査対象: 全国の持家戸建居住の核家族、末子中学生以下の子を持ち、夫がフルタイム勤務の25~49才の夫婦1,854名(妻1,030名、夫824名)
<内訳>(1)妻がフルタイム勤務の夫婦412名(妻618名、夫412名)
(2)妻がパートタイム勤務の夫婦412名(妻206名、夫206名)
(3)妻が専業主婦の夫婦412名(妻206名、夫206名)
※各層、末子年齢「未就学児」「小中学生」が半々
調査時期: 2013年10月
追加調査: 2013年12月に実施。回答者1,718名(回答率92.7%)
今回の分析データ: 上記対象者のうち、夫婦共フルタイムで働く子育て家族の妻618名

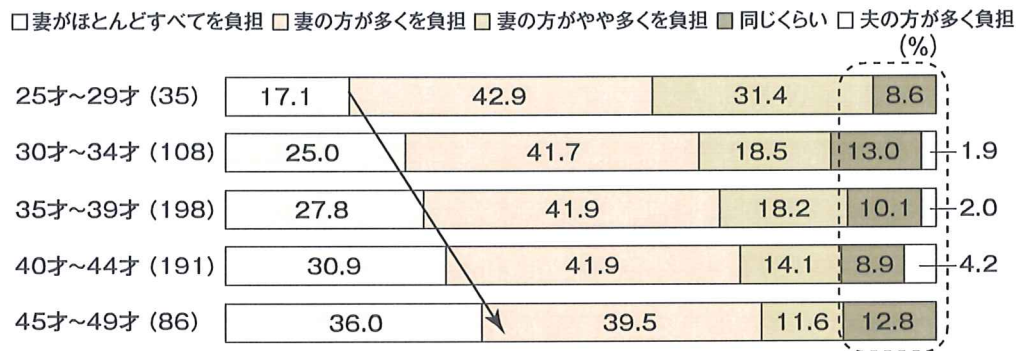


1 妻年齢に比例して「家事は妻がすべて負担」の比率が高くなる

家事分担度の低い夫婦の特徴の第1は妻年齢が高い層ほど「妻がほとんどすべて負担」の比率が高くなっていること。「25～29歳」17.1%、「30～34歳」25.0%、「35～39歳」27.8%、「40～44歳」30.9%、「45～49歳」36.0%と、25～29歳と45～49歳で18.9ポイントもの差が生じています。逆に妻年齢が低い層では、「妻がやや多くを負担」の比率が高い傾向がみられます。

最近「イクメン」「カジメン」がもてはやされるなど若年層を中心に夫の家事協力が進んだといわれますが、このデータからも「若年層ほど夫が家事をしている」ということはいえそうです。一方で、夫の分担度が高い層（「同じくらい」+「夫の方が多く負担」）は年齢による差はあまりなく、8.6～13.0%の範囲におさまっています。家事分担度の高い層は年齢による差はあまりなさそうです。

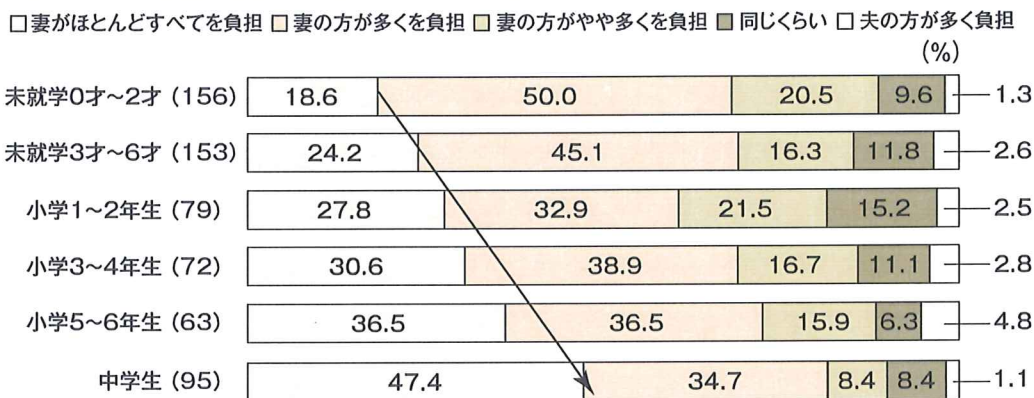
■夫婦の家事分担度（実態）※妻回答〈妻年齢別〉



2 末子年齢と家事分担度の関係

家事分担度の低い夫婦の特徴の第2は、末子年齢が大きくなるのにしたがって「妻がほとんどすべてを負担」の比率も高くなっていることです。子供が小さい層は夫婦の家事分担度は高く、子供が大きい層ほど夫の家事分担は減少しています。「妻がほとんどすべてを負担」は、「0～2歳」では18.6%ですが、「3～6歳」24.2%、「小学1～2年生」27.8%、「小学3～4年生」30.6%、「小学5～6年生」36.5%、「中学生」だと47.4%、2人に1人が「ほとんどすべてを負担」という状況になっており、子供が0～2歳と中学生では28.8ポイントもの差があります。末子年齢が高いと妻年齢も高いことから、前項の「妻年齢」の影響もありますが、子供が成長し、子供に手がかかなくなると、夫は家事をしなくなる傾向も伺える結果です。

■夫婦の家事分担度（実態）※妻回答〈末子年齢別〉

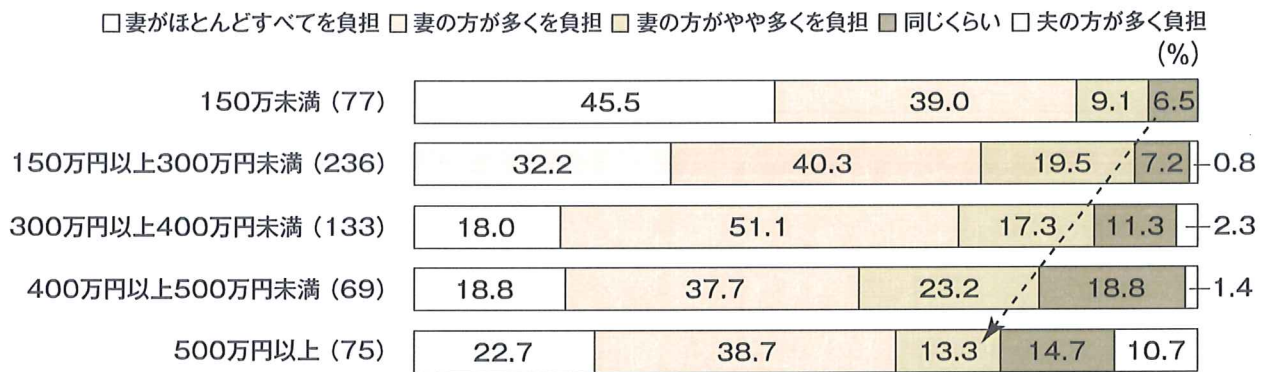


3 妻の年収で変わる家事分担度

妻の年収別に家事分担度を見ると、妻の年収が低いほど「妻がほとんどすべてを負担」の比率が高くなっています。「妻がほとんどすべてを負担」は「年収150万円未満」45.5%、「150万円以上300万円未満」32.2%、「300万円以上400万円未満」では18.0%、年収300万円を境に家事分担度が大きく変わっています。妻の年収が300万円以上では、あまり差がみられず、「400万円以上500万円未満」は18.8%、「500万円以上」22.7%。

夫の分担度が高い層に着目すると、「妻と同じくらい負担」「夫のほう負担」の比率は妻の年収と比例して妻年収が高くなるほど夫の分担度は高くなっています。妻の年収「150万円未満」6.5%、「150万円以上300万円未満」8.0%、「300万円以上400万円未満」13.6%、「400万円以上500万円未満」20.2%、「500万円以上」25.4%と、夫の家事分担度の高い層の増減は、妻の年収との相関がみられます。

■夫婦の家事分担度(実態) ※妻回答〈妻年収別〉



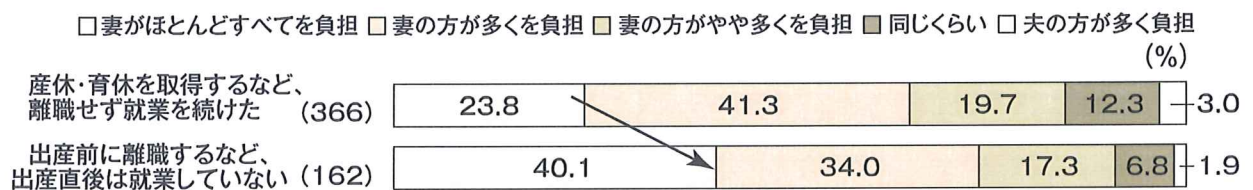
4 出産前後の女性の就業継続と「家事分担度」の関係

出産前後の女性の就業継続と家事分担度の関係は、「産休・育休を取得するなど離職せずに就業継続した妻」は、「妻がほとんどすべてを負担」している割合は23.8%、これに対し、「出産を前に離職するなど出産直後は就業していない妻」は40.1%とダブルスコアに近い数字となっています。

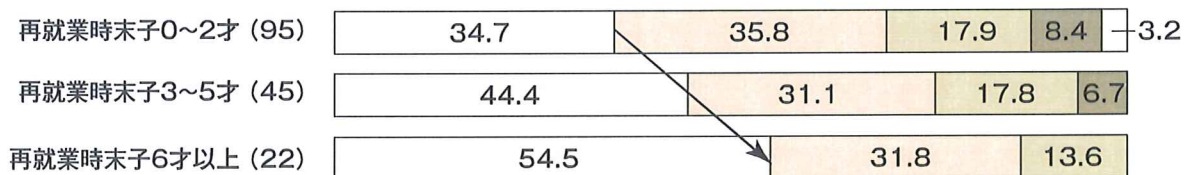
また、家事分担度と再就業時の末子年齢の関係を見ると、「妻がほとんどすべてを負担」は末子年齢「0~2歳」が34.7%、「3~5歳」44.4%、「6歳以上」54.5%。再就業時の末子年齢が高い層ほど、夫の家事分担度は低くなっています。

このデータは、前出の「妻年齢」「末子年齢」「妻の年収」などの影響もあると思われませんが、妻の非就業期間が長い家庭ほど、「家事は妻の担当」という役割分担がより定着化してしまう可能性が伺える結果となっています。

■夫婦の家事分担度(実態) ※妻回答〈出産前後の妻就業継続〉



(再掲)〈再就業時の末子年齢〉



〈研究員のコメント〉

ご紹介したデータで、「妻の家事負担割合は、妻年齢、末子年齢が高くなるにしたがって増え、逆に妻の年収が高くなるにしたがって減少する」という点は、想像しやすい結果だったと思われます。今回のデータで着目したい点は、「夫婦で同程度の家事負担、あるいは、夫の方が多く家事負担」している層の増減との相関は、「妻年齢」や「末子年齢」ではみられず、『妻の年収』でみられたという結果です。家事負担が夫婦平等程度になるには、年収も夫婦平等程度になるような、女性の年収UPが必要ということでしょうか。(担当：小林 佐和)